THE SERVICE CLUB OF Y.M.C.A.
THE Y'S MEN'S CLUB OF KOFU 21

KOFU21
Chartered 1990
甲府21ワイズメンズクラブ

編集長　野々垣和宏　　2024年8月6日（火）発刊

〒400-0032 山梨県甲府市中央３丁目１０－７
山梨ＹＭＣＡグローバルコミュニティセンター
☎055-235-8543　　fax055-235-8553
Mail　kofu21@googlegroups.com

国際会長	A・シャナヴァスカーン（インド）	「より良い世界のために、共に」(Together for a Better World)
アジア太平洋地域会長	ジョウン・ウォン（香港）	「大きなインパクトを起こそう」(Make a Great Impact)
東日本区理事	山田公平　（宇都宮）	「ワイズの方向性を見極める」(Our Future Direction)
あずさ部部長	ピーター・マウントフォード（甲府）	「めあて　望み」
甲府21クラブ会長	輿水順雄	「未来のために行動しよう」(Let's act for future!)

甲府21ワイズメンズクラブ
2024年8月会報

今月の強調テーマ
戦略2032

[今月の聖句]　　選・山縣　譲治

「愛する者たち、互いに愛し合いましょう。愛は神から出るもので、愛する者は皆、神から生まれ、神を知っているからです。
愛することのない者は神を知りません。」　（ヨハネへの手紙一　第４章７－８節）

８月 巻頭言

会長　輿水 順雄

キックオフ例会では、江口さん、志村さん、平田さんが新たにメンバーに加わり 44 名の会員で新年度のスタートとなりました。その後も銀河鉄道の森づくりをするユースのための昼食作り、第２例会、第１回あずさ部評議会、フクロウキャンプと行事が続きました。多くの皆さんにご参加いただき、感謝いたします。

銀河鉄道の森では、清藤シェフのタコライス、薬袋シェフのダッチオーブンでの豚肉料理が絶品でした。ユースのメンバーは、大変喜んで料理を楽しんでいました。次の機会には森づくりを行うユースの支援方々、美味しい料理を食べにご参加ください。第二例会ではフードドライブを行い、多くの皆さんが協力していただき３２Kg もの食品が集まりました。給食のない夏休みに痩せてしまう子供たちがいるのは、切ない話です。円安とインフレでフードバンクに集まる食品も相当減っているようです。皆様のご協力に感謝すると共に、この活動は継続して支援して行きたいと思います。

８月８日から 11 日までチェンマイでワイズの国際大会が開催されます。甲府 21 からは佐藤重良ワイズ、山梨 YMCA からは福田奈理子さん、ユースリーダーの本田生磨さん（都留文大生）が参加します。海外ですので参加費用もかかります。ユースの支援を掲げていますので、本田さんの費用の一部でも支援をしたいと思います。時間もありませんので、８月第１例会でのニコニコ献金を当てたいと思います。趣旨をご理解の上、普段より少し多めの献金をしていただきたくお願いいたします。

厳しい暑さが続きますので体調を見ながら、各種行事への参加をお願いします。

８月第一例会プログラム

2024年8月6日（火）　18：30～
会場：山梨ＹＭＣＡ ３階大澤英二記念ホール ベテル

司会　山口　了

1．開会点鐘　輿水順雄会長
2．ワイズソング・ワイズの信条
奏楽　杉田博子ワイズ
3．今月の聖句・一言　山縣譲治ワイズ
5．会長挨拶、ゲスト紹介　輿水順雄会長
6．ハッピーバースデー
7．ワイズディナー
8．会員卓話　江口英雄ワイズ
9．YMCA 報告・諸報告
10．YMCA の歌
11．閉会点鐘　輿水順雄会長

《8月の誕生者》 Happy Birthday!

〈メン〉
輿水　順雄（8/6）
藤原　琢也（8/7）
平賀　佳雅（8/23）
小野　興子（8/27）
飯田　　剛（8/30）

〈メネット〉　　［敬称略］

2024年7月キックオフ例会報告

書記　荻野 清

日時　2024 年 7 月 2 日（火）18：30 ～
会場　山梨県地場産業センター『かいてらす』

2024 年 7 月のキックオフ例会が、『かいてらす』で開催されました。ゲストは、あずさ部部長のピーターM. さん、同書記の田中克男さん、山梨 YMCA から中田総主事、福田ディレクター、菊池スタッフ、渡辺ユースリーダー及び㈱ G. ファクトリー中込社長の 7 名の方々にご参加いただきました。
定期総会では、小澤公紀直前会長の議長により、2023-2024 年度の事業報告及び決算報告がなされ、満場一致で年度締めとなりました。次に輿水順雄新会長が議長となり、2024-2025 年度の事業計画案及び予算案を発表し承認されました。また、メネット会より野々垣悦子会長から 2023-2024 年度報告がありました。
さて、このキックオフ例会では、3 名の新入会員が誕生しました。江口英雄ワイズ、志村直毅ワイズ、平田耕治ワイズです。今後の当クラブでのご活躍を期待します。
その後の懇親会では、後藤ワイズの食前感謝、飯田ワイズの乾杯で宴に入り、ゲストスピーチとして、山梨YMCA中田総主事から現状のYMCAと共にユース活動における甲府 21 クラブの支援に感謝を話され、YMCAスタッフ菊池さん及びユースリーダーの渡辺さんから現状報告がありました。
久々の他会場での例会で、笑顔や雑談が満開の二時間半でした。
（2024 年 7 月より第 1 例会の開始時間が 18：30 となります）

平田耕治ワイズ

江口英雄ワイズ

志村直毅ワイズ

今後の予定

8月6日（火）	第1例会　18時半
9月6～8日（金～日）	ユースボランティア・リーダーズフォーラム（山中湖）
9月10日（火）	第2例会　18時半
9月21日（土）	第1例会　（ぶどう棚下例会）11時～

［会計報告］　2024 年 7 月末現在　赤根

項目	ニコニコ	バザー	クリスマス	トータル
目標値	250,000	100,000	50,000	400,000
7月の合計	32,002	0	0	32,002
7月末迄累計	32,002	0	0	32,002
達成率	12.8%	0.0%	0.0%	8.0%

《 7月例会の出席者》

59.1%

会員数	44名
第一例会出席者	26名
ゲスト参加者	7名
メネット	7名
総出席者数	40名
出席率(会員のみ)	59.1%

ペンリレー

末木 咲子

「古代からの戦いの意志を受け
最前線で日本を守る対馬部隊」

末木　咲子

＜日本を取り巻く台湾有事＞

中国は台湾を攻撃するのではと言われています、それらが海流の影響で日本周辺に流れれば、日本海で船舶が航行できない状況が起きて日本にも大きな影響がでます。

それに加え北朝鮮ミサイル発射の頻度が多くなっています。また核潜水艦と水中発射核戦略武器の保有も明らかにしています。

韓国人は観光で多くの方々が訪れますが中国人は一切訪れないそうです。

私たちは山梨の内陸にいるとなかなか最前線ではどの様な状況か知らずにいます。

実際の様子をみて知るために対馬駐屯地視察・研修をさせて頂きました。

長崎県対馬は日本海に位置する島で、日本と朝鮮半島の間にあります。対馬港は福岡港から１３２Km 韓国の釜山から４９、５ｋｍと本土より韓国に近くて、韓国の様子が晴れた日はよく見えます。古代から中世にかけて、対馬は日本と大陸（朝鮮半島や中国）との交易や外交の要所として重要な役割を果たしてきました。

＜古代からの戦いの歴史＞

宗家対馬藩は、朝鮮との交渉役また国防の最先端として江戸時代には 10 万石格が与えられていました。宗家の始まりは初代当主宗助国公の元寇 (1271) の功績に始まります
遠く朝鮮半島が見える小茂田浜が主戦場。宗助国公が 80 余騎を率いて蒙古軍 2 万 5 千、高麗軍 8 千の兵を迎え打ち、5 時間に渡る戦いで武将たちは戦没しました。その死を恐れない戦いぶりが蒙古軍を船上に待機させました。その事が神風 (台風) を引き寄せ国を守ることにつながっています。宗助国公の壮絶な戦いぶりは、首塚、胴塚、手足塚、と供養する場所が違うことからも伺えます。国難を前にした時にさっそうと矢面に立ち堂々と戦った宗助国公を筆頭に戦った兵を敬い讃えたいと思います。国難を前に、どのような行動をとるのか、常に私たちも肝に銘じたいと思います。

その後対馬要塞砲台が 30 設置されました。司令部として姫山砲台があったそうです。島内のあちらこちらに史跡があり、当時の様子を物語っています。

駐屯地は、明治 5 年に鎮西鎮台から対馬分遣隊が対馬藩の桟原駐屯。明治 30 年には司令部等が鶏知に移転。大正 9 年には警備隊から改編されましたが、終戦により解体しました。

戦後は米軍の駐留もありましたが、昭和 37 年に別府の第 41 普通科連隊第 4 中隊が移駐し対馬分屯地が開設され、昭和 55 年に対馬警備隊の新編に伴い、対馬駐屯地に格上げされたそうです。

課題として、航空機の外国の動向が増えているそうですが、対馬の防衛力の整備が進められていないそうです。また、島内に 700 名の自衛隊が整備しているそうです。しかし対馬が指定公安になっていないそうです。

防人の時代から守っているという習慣があるので、島民との交流が多くフレンドリーだそうです。

今後も対馬武人は令和の防人として島民一体となり活躍をして頂きたいと思います。

「日本での百年」を辿って

カナダ・メソジストの歩み［明治・大正編］
グウェン・R. P. ノルマン◉著
後藤哲夫◉訳
One Hundred Years In Japan, Part I: 1873-1923

後藤　哲夫

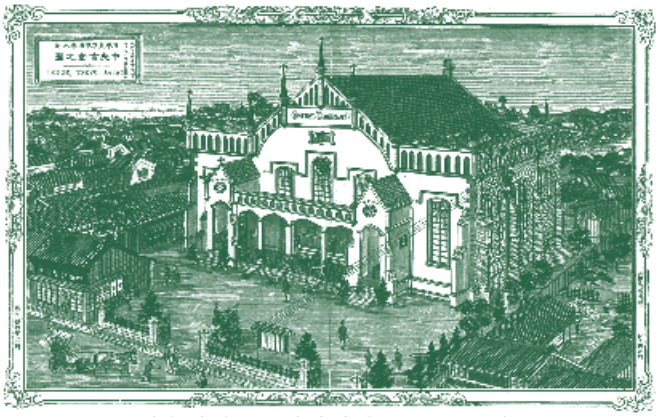
第７回　「日本伝道の危機」

１８８９（明治２２）年、山梨英和女学校は設立した。さらに同年、「大日本帝国憲法」も発布された。翌９０年、「教育勅語」が出されて、国民を天皇の臣民とする皇国教育が始まった。内村鑑三は勅語朗読の際頭を下げず、大きな問題となって、キリスト教への圧力も増した。１８９９（明２３）年、キリスト教学校の存続を危うくしかねない大事件が起こった。キリスト教教育を禁ずる「文部省訓令１２号」の発令である。キリスト教教育を続けるならば、各種学校扱いとなり、徴兵猶予の特典もなくなり、上級学校への進学資格も得られないというものだった。男子ミションの東洋英和学校は、生徒が集まらず、閉校となった。しかし、婦人宣教師たちの３つの英和女学校は、キリスト教教育を堅持し続けた。

さて、このような時代背景の中で、カナダ人宣教師たちはどのようであっただろうか。１８９５年前後に事件が発生した。それは人間関係の複雑なもつれ、紛糾と呼ぶべきものだった。「男子ミッション宣教協議会」と「婦人宣教局宣教協議会」および、日本人牧師も含まれる「日本年会」、さらにイビーのつくった「自給伝道隊」といった組織が絡んでその糸をほごすのは難しかった。（総会で丸３日議論して、英文２００頁の筆記録が残されている）

多くの糸のもつれの一つは、イビーの中央会堂＊の管理・運営に関するものであった。
彼の出費は莫大なもので、彼の行動力と発想はすばらしく、宣教活動への貢献は無視できぬものであったが、乱費が多く、中央会堂監査人によると、会計簿をつくることにも非協力的だというのである。一方彼を支持する、カシディーら、彼の自給伝道隊の者も出てきて争いとなっていった。さらにもう一つは、宣教活動において、支配下に置きたいという男子宣教師と妥協をしない独立の精神を持った婦人宣教師の怒りが衝突した事件だった。言うことを聞かない婦人たちは、ミセス・ラージがいるからだと、彼女への恨みが増し加わった。断固としたミセス・ラージの態度が次第に彼女を、スケープゴートにしてしまった。紛糾の原因はこのほかにもあるが、興味のある方は「本訳書」を読んで欲しい。
ミス・カートメルは次のように述べている。

「まるでサタンが教会を引き裂き、破壊するために解き放たれたかのように見えます。散らされた羊がいて、二度と再び戻らないとしても不思議には思えません。」１８９０年代はこのように苦難と試練の連続であったが、やがて、過去を反省し、組織を改善し、人間関係を再構築し、これまでの傷は、ゆっくりと癒えつつあった。



本郷春木町　中央会堂　明治 24 年

ブリテン委員長　野々垣和宏です。
夏目漱石の三四郎の中に中央会堂に触れている部分があります。中央会堂が建設されたのは 1890 年。三四郎が朝日新聞に連載されたのは、1908 年の 9 月から 12 月の事でした。三四郎から少し抜き書きします。

〜〜〜〜ここから引用〜〜〜〜
美禰子の会堂へ行くことは、はじめて聞いた。どこの会堂か教えてもらって、三四郎はよし子に別れた。横町を三つほど曲がると、すぐ前へ出た。三四郎はまったく耶蘇教に縁のない男である。会堂の中はのぞいて見たこともない。前へ立って、建物をながめた。説教の掲示を読んだ。鉄柵の所を行ったり来たりした。ある時は寄りかかってみた。三四郎はともかくもして、美禰子の出てくるのを待つつもりである。
やがて唱歌の声が聞こえた。賛美歌というものだろうと考えた。
〜〜〜〜ここまで引用〜〜〜〜
中央会堂は 1924 年の関東大震災で焼失してしまいましたが、その後再建されています。私は今年の春に湯島天神へ梅を見に行ったついでに本郷を訪れ中央会堂を見ました。そして、歴史と対峙したのです。

第 1 回あずさ部　信濃の国評議会

書記　荻野 清

今年度のあずさ部部長ピーター・マウントフォード氏の初陣である、「あずさ部信濃の国評議会」が、7 月 27 日（土）の 13 時から、松本市の『あがたの森公民館』で開催されました。
参加者総数 51 名の評議会は、滞りなく議事が進行し、“長野県の歴史”の寸劇が採り入れられ、改めて信濃の国という歴史的成り立ちを実感しました。

9月『ぶどう棚下例会』のご案内

9 月例会は今年も『ぶどう棚下例会』として、次のとおり開催します。皆様のご参加をお願いします。
今回も甲州市勝沼町の“ぶどうの丘”で、例会+BBQ を楽しみながらの懇親の場を作りたいと思います。垣根を越えたご参加をお待ちしております。
＊日時：9月21日（土）11：00 ～ 14：30
＊場所：『ぶどうの丘』
　〒409-1302 甲州市勝沼町菱山 5093
　TEL：0553-44-2111
　https://budounooka.com/
＊会費：　　5,000 円

ふくろうキャンプ2024報告

書記　荻野 清

8 月 2 日金曜日に、山梨 YMCA 恒例の『ふくろうキャンプ』が、清里にある山梨県八ヶ岳自然の家において開催されました。
総勢 43 名というの中で、カレー & 鳥の唐揚げ+トウモロコシ焼という豪華な食事を全員参加で、火起こしに始まり、野菜のカットやトウモロコシの皮剥き、ご飯炊き、そしてカレーの仕上げという賑わい時を楽しみました。
今回は、甲府 21 ワイズ 12 名及びメネット 6 名というメンバーで、元気の良い学童に負けない行動の姿が見受けられました。スナップ写真をご覧ください。

【第9回 銀河鉄道の森デイワーク(1周年)】

報告：平賀

日時：2024 年 7 月 15 日（月・祝）　8：30 ～ 16：00
参加ユース:天野亜衣子、石井里歩、本田生麿、宮下敦祈、渡邉夕稀、渡邊結菜、アルシュ清藤アルワニ（インドネシア）（以上 7 名）
一般：石川啓吾（笛吹市）、清藤直子（インドネシア）、菊池央人（スタッフ）、福田奈里子（スタッフ）（以上4名）
21 ワイズボランティア：小澤公紀、輿水順雄、後藤哲夫、佐藤重良、清藤城宏、薬袋勝、野々垣健五、野々垣悦子、松村禎夫（以上 9 名）
指導者：千田敦司、國分基彦
合計　22 名（敬称略）

◆YMCA便り◇

「つながりによる喜びと希望を」

総主事　　中田　純子

ワイズメンの皆様、7 月のキックオフ例会の開催、おめでとうございます。ご招待いただいたクラブの皆様と豊かな時間を共有できましたこと、心より感謝申し上げます。

昨年度は、皆様のご協力のおかげで、YMCA を利用している子どもたちはバザーやしめ縄作り、お正月遊び体験、チャリティーラン・フクロウキャンプなど、多くの貴重な体験をすることができました。特に恒例行事においては、保護者の皆様から期待と喜びの声をいただいています。また、YMCA のキャンプ場「銀河鉄道の森」でのデイワークでは、ユースの応援隊として食事の準備や竹細工の指導に尽力していただきました。これらの活動を通じて、ワイズメンの皆様の温かい支援は、子どもたちにとって大きな励みとなり、自己実現の場を提供しています。

今年度も、皆様との「つながり」を大切にし、こどもファーストをテーマに掲げ、子どもたちが自分のやりたいことを見つけられるよう支援し、子どもたち同士の絆を深めると共に、ワイズメンや地域との連携を一層強化していきたいと考えています。YMCA が子どもたちにとって居心地の良い居場所となり、彼らが自分の力を信じて成長できる環境を整えていきたいと思います。皆様の豊富な経験や知識を活かし、子どもたちに多くのことを教えていただけることを期待しています。

また、私たち職員にとっても皆様の支えは大きな力となっています。皆様と共に活動することで、私たちも多くの学びや発見を得ています。新年度も、皆様と力を合わせて子どもたちやユースの成長を見守り、地域に根差した山梨 YMCA を支えていただけますようお願いいたします。
この一年間が皆様にとって豊かな活動の年となりますよう心よりお祈り申し上げます。